

保育所における2歳児クラスから3歳児クラスへの接続問題

平沼 博将

(大阪電気通信大学 人間科学研究センター)

キーワード：保育所、接続問題、3歳児の保育、児童福祉施設最低基準

【目的】 保育所に配置する保育士の数は児童福祉施設最低基準（第33条）において「満1歳以上3歳未満では子ども6人につき保育士1人」、「満3歳以上4歳未満では子ども20人につき保育士1人」と定められており、多くの保育所では、この基準に倣い各クラスの担当保育士数を決めている。その結果、2歳児クラスと3歳児クラスとでは、保育士1人当たりが受け持つ子どもの数が大きく変わることとなり、その移行期（3歳児クラス前半期）には、子ども同士のトラブルが増えたり、保育士のストレスが高まったりするなどの「問題」が指摘されている（平沼，2005）。

本研究では、3歳児クラスへの移行期において、主として保育条件の変化により引き起こされると考えられる諸問題を「2歳児クラスから3歳児クラスへの接続問題」と位置づけ、保育士へのアンケート調査をもとに、クラス規模、職員体制、障害児の有無といった観点から3歳児クラスの保育条件を検討することによって「接続問題」の解決に向けた端緒を探りたいと考える。

【方法】 ある民間団体が主催する研修会（2010年5月上旬開催）に参加した3歳児クラス担当保育士（127名）を対象に「3歳児クラスの保育に関するアンケート調査」（無記名回答）を実施した。主な質問項目は（1）保育士歴、（2）保育所の設置主体（公立 or 私立）、（3）これまでに3歳児クラスを担当した回数、（4）2歳児クラスからの持ち上がりか否か、（5）クラス規模（在籍児童数）、（6）職員体制（正規、非正規別）、（7）クラスに在籍する障害児や気になる子の人数、（8）3歳児クラスを保育している困っていることや悩んでいること（自由記述）である。

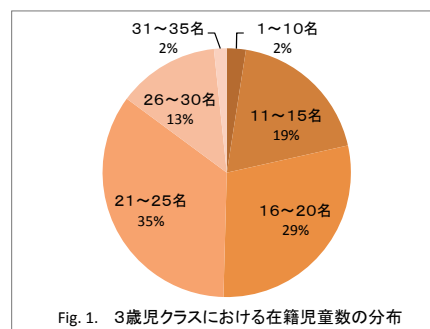
【結果】 本研究では、回答漏れがあった1名と他年齢児との混合クラスを担当していた5名を除いた計121名（公立56名、私立65名）を分析の対象とした。

まず、保育士としての経験年数について調べたところ平均は9.9年であったが、経験年数5年以下の保育士が51名（42.1%）と全体の約4割を占めた。次に、これまでに3歳児クラスを担当した回数について調べたところ、平均は1.95回で、半数以上にあたる65名（53.7%）が、今年度初めて3歳児クラスを担当した保育士であった。また、2歳児クラスから持ち上がりで3歳児クラスを担当した保育士は54名（44.6%）であった。

児童福祉施設最低基準には保育所に配置すべき保育士数の規定はあるものの、幼稚園や小学校のようにクラス規模（1クラスあたりの在籍児童数）は定められていない。そこで、現在担当している3歳児クラスの在籍児童数の平均を設置主体別に調べた。その結果をTable 1に示す。公立、私立ともに平均在籍児童数は約20名であったが、Fig. 1に示すように保育所によりかなりばらつきがあり、26名以上が在籍する3歳児クラスも約15%あった。

Table 1. 設置主体別3歳児クラス在籍児童数の平均

設置主体	在籍児童数（標準偏差）
公立	20.4人（4.50）
私立	20.1人（6.10）



次に、3歳児クラスを担当する保育士の数についてクラス規模ごと、雇用・勤務形態別に平均人数を調べたところTable 2のような結果となった。非常勤やパートを含めると職員1人あたりの児童数は平均10.6人であり、これは「最低基準」に定められた保育士1人あたりの児童数（=20人）の約半分にあたるということが明らかになった。

Table 2. 3歳児クラスの職員配置数の平均

クラス規模	クラス数	正規・常勤嘱託	非常勤・パート	合計
1~15名	26	1.23人	0.19人	1.42人
16~20名	35	1.34人	0.63人	1.97人
21~25名	42	1.78人	0.56人	2.34人
26~35名	18	1.72人	0.94人	2.67人

最後に、在籍児童に占める「障害児」や気になる子の比率について調べたところ、診断書が出ている障害児が54名（2.2%）、保健所や療育機関で障害名を告げられている児童が26名（1.1%）、巡回相談を受けている児童が77名（3.1%）、かなり気になっている子どもが187名（7.6%）となり、合わせると344名（14.0%）にも上った。

【考察】 本研究の結果より、3歳児クラスの保育をすすめる上で、現状においても「最低基準」の倍にあたる「子ども10人に1人の保育士」が必要となっている実態が明らかになった。また、自由記述による回答からは、特別な支援を必要とする子どもたちの増加傾向、職員の非常勤化や勤務体制の複雑化が進んでいることにより、3歳児クラスの保育が、体制的にも、保育内容の面でもますます難しくなっていることが示唆されている。

【引用文献】 平沼博将 2005 三歳児の保育を楽しむために 『現代と保育』, 61, p. 53-66. ひとなる書房

(ひらぬま ひろまさ)